

テーマ：子供の体験活動 対象：小学校4年生～高校生 主催：河内公民館

公民館商店街（子どもが営む商店街）

子供の居場所としての活用		住民相互の学び合い・交流	○	関連施設・施策や民間企業等の連携	○
--------------	--	--------------	---	------------------	---

1 学習プログラムの展開（令和6年度）

日 程	場 所	学習・活動内容（◇は職員の活動）
令和6年 5月～	尾道市立御調西小学校・河内公民館	◇尾道市立御調西小学校6年生に公民館祭りのチラシデザインを依頼。 ○作成された3種類のチラシを、町内全域の学校・保育所等に、小学生が主体となって依頼をし、配付。 ◇公民館祭りの運営を小学4年生から高校生までを対象に募集。
令和6年6月末	河内公民館	◇公民館祭りの実施。 ○御調中央小学校、御調西小学校、御調中学校、県立御調高等学校が公民館祭りの運営に参加。 ◇公民館祭りの運営に携わった児童・生徒に対して、公民館商店街の参加を呼びかけ。
令和6年 7月～	河内公民館等	○公民館商店街の参加を希望した小学生それぞれが、販売する商品を決め、店舗のチラシを作成し、チラシの配付場所を決定、チラシの配付。 ○保護者が講師となり、子供たちが商店の運営（仕入れ、金銭管理含む）について、学習。
令和6年 12月14日（土）	河内公民館	○公民館商店街を、小学生が中心となり、それぞれの個性を生かしながら運営。
  		
対 象	小学校4年生～高校生	
経 費	参加費無料、広島県公民館連合会助成金7万円（報償費、印刷代等）	
連携先	尾道市立御調西小学校、御調地域学校運営協議会、みかん農家	

問
合
せ
先

尾道市河内公民館

〒722-0343 広島県尾道市御調町丸河南 90 番地 1

電話：0848-76-1981 メール：kawachi.kominkan@arrow.ocn.ne.jp

2 学習目的

○少子高齢化が進む中、若者の定着や帰郷が、地域づくりには不可欠である。また地域貢献を望む子供が地域に多く見られる。そこで地域貢献活動（公民館商店街の運営）を子供が主体となつて行うことを通して、子供の自己肯定感、自己有用感、達成感を育むとともに、地域への愛着心を高めることを目指した。

3 学習目標（学習目的の達成に向けて、身に付ける力）

○子供が、参加者同士でコミュニケーションをとったり、地域内外の来客者とコミュニケーションをとったりする中で、自分と地域（住民）との関係性を意識し、地域に関心を持つこと
○商店を主体的に運営したことで地域貢献が出来たという子供の意識を向上させること
○商店運営に関する経済的な知識・理解を高めること

4 事前に必要な知識や準備物

○商店運営に関する予備知識
○連携団体との連絡・調整
○他の事業（公民館祭り・学習支援ボランティア）と関連性を持たせる仕組みづくり
○チラシの作成に関わる準備

5 留意点

○子供の考えや思いを引き出し、実現できるように支援する。
○学校運営協議会等と日常的に連携をする。
○金銭を扱うので管理を慎重に行う。

6 成果

○地域に開かれた公民館としての役割を果たせた。
○子供が主体的に事業に関わり学んだことで、子供の自己肯定感や自己有用感が高まった。
○保護者が講師となったことにより、家庭内での学びの機会が増加した。
○子供や保護者、地域住民といった多くの世代が関わるコミュニケーションの場となったことにより、子供だけではなく、公民館商店街に関わった大人たちが、地域住民としての当事者意識を高めることにつながった。

7 課題

○公民館商店街の運営に、中高生の関わりがなかった。中学生については、事業に上手く導くことが出来ず、高校生については、日常的なつながりが薄かったことが原因だと思われる。

8 学びの成果を事業後に生かすための工夫

○公民館祭りにおいて、小学生・中学生・高校生が協働する機会を計画し、公民館商店街の運営実施に対する参画意識を高め、協働体制を構築する。
○大学生がアドバイザーとして事業に関わることによって、より効果的な協働活動を展開する。